

「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成」

～各教科等における言語活動の充実を通して～

## I 研究の内容

### 1 主題設定の理由

本年度は、学習指導要領の改訂の趣旨と昨年までの研究実践を踏まえつつ、研究主題を「自ら考え判断し、自分の思いを表現できる児童の育成 ～各教科等における言語活動の充実を通して～」と設定した。言語環境を整えて、各教科等における言語の果たす役割を十分に吟味して指導に当たると共に、お互いの考えを練り合う場面を大切にしながら、筋道を立てて思考し、表現する力を高めていく。

言語活動を充実させた授業を作り、その中で自分で考え判断したことをお互いに表現し合い、高め合っていく児童をめざし、研究を進めていく。

### 2 研究の具体的な内容と方法

#### (1) 児童の実態調査（「言語環境実態調査」を5月・12月に実施）

- ・各ブロック（低・中・高学年）で、児童の実態から課題を2，3点に絞り込み、取り組みを行ってきた。

#### (2) 新学習指導要領についての学習会

- ・「特別支援教育のありかた」 講師 コーディネーター 雨宮 久 教諭
- ・「外国語活動を行うにあたって」 講師 常永小学校 時田和彦 教諭

#### (3) 授業案の作成・検討及び授業実践

- ・第2学年 図画工作科 「〇〇をさがそう」 B鑑賞（1）

授業者：古屋ゆか教諭

指導助言：須玉中学校 鷹野 晃 教頭先生

- ・第3学年 国語科 進んで話し合い，発表しよう 「分類」ということ

授業者：武井 文明教諭

指導助言：義務教育課 小林 大 指導主事

峡東教育事務所 原 喜雄 主幹指導主事

- ・第5学年 国語科 詩を味わおう「晴間／海雀／雪」

授業者：白鳥 利恵教諭

指導助言：峡東教育事務所 原 喜雄 主幹指導主事

#### (4) 一人一実践の提供（全職員）

## II 成果と課題

### 1 成果

- 学習指導要領の改訂の趣旨と昨年までの研究実践を踏まえつつ、研究主題を設定したことは良かった。また、教科を限定しなかったことで、各教科等の言語活動の充実に向けた授業のあり方を学ぶことができた。
- 言語活動を取り入れる際、単元の目標を達成するために有効か、どんな言葉の力がつくか、思考力・判断力・表現力の育成につながるか検討すべきであることを学ぶことができた。
- 毎日の授業の中で言語活動の充実を心がけたことで、教師自身も子どもたちも意識して言語を獲得する（学ぶ）機会をつくることができた。
- 国語力向上推進協議会の「ことばの環境にかかわるアンケート」の利用は、質問項目も研究されたものなので有効であり、研究の方向性を探ることもできた。
- 実態調査を行い、研究に役立てたことはよかった。結果が数値として出るので、成果が分かりやすい。また、県下の平均値を示していただいたことで、クラスの実態を客観的にとらえることができた。
- 本校の児童の実態を把握し、言語環境の課題を焦点化し、共通理解を図る中で「豊かな言語環境プログラム」を活用して日常的に取り組むことができた。
- 学習会は、具体的内容を含み、実践にすぐつなげられる内容で行われたので、とても充実していた。
- 特別支援教育の校内研修により、教室の前面の掲示をできるだけ少なくすることに取り組むことができた。（視覚構造化した教室環境）
- 外国語活動の学習会では、学担が中心となって授業を進めることに対する抵抗感を減らすことができた。
- 研究授業を行うことで、改めて子どもの実態を見直したり、教材研究、指導方法の検討ができ良かった。また、一人一実践を行うことで、他の先生方の授業を見て学ぶことができた。
- 研究授業が3本になるが、3ブロックで研究を進めることで、授業案の検討が時間的にも内容的にも無理なくできた。

### 2 課題

- お互いの実践を多くの先生方と見合うことができるように、一人一実践の時期を分散していく必要がある。
- 来年度は、低、高の2ブロックにして、授業づくりを深めるとともに、具体的な取り組みの部分にも、もう少し時間を割くことも一考の余地がある。

## III 成果物

- 1 言語環境実態調査アンケート
- 2 研究授業・授業実践の授業案

(研究主任 山田 浩)